

盲ろう者向け通訳・介助員 派遣事業 / 養成事業

盲ろう者向け通訳・介助員研修会

9月9日（土）第2回目の現任研修を秋田市で開催しました(^▽^)/
前半は「通訳・介助員としての心構え」として、通訳・介助員の役割とは何か？など基本から講義をしていただきました。午後から通訳・介助中の出来事について事例検討をしました。講師の盲ろう者と通訳・介助員が「通訳・介助中のひとコマ（出来事）」の寸劇を披露します。その後グループに分かれて良いところ、改善が必要なところなどいろいろな意見を出し合いました。

自分とは違う様々な意見に刺激をもらいました。



盲ろう者向け通訳・介助員養成講座

❧ 平成30年度の養成講座が終了しました！ ❧

今年度の盲ろう者向け通訳・介助員養成講座が11月16日に終了しました(*^^*)

最後まで頑張って修了された方々、修了おめでとうございます！修了されたみなさんには、今回も点字の打たれた修了証をお渡ししました。



手話通訳者現任研修

9/22（土）に、第2回目の現任研修を行いました。テーマは「読み取り通訳でのノイズについて」「通訳しやすいフォローのしかた」です。講師は昨年引き続き、手話通訳士協会の草野氏にお引き受けいただきました。読み取り通訳では、通訳者個人の話し方のクセだけではなく、話者の意図からハズした表現も対象者にとってのノイズとなる可能性があります。

また通訳時のフォローは、通訳のどの段階でのつまづきなのかによって、フォローの方法が異なることを学びました。

参加者からは、「今までにはない視点での学習で、目からウロコでした！」との感想がありました。



要約筆記者現任研修

11/10（土）に、今年度2回目の現任研修を行いました。

今回も（特非）全国要約筆記問題研究会の講師にお越しいただきました。「視覚資料のある現場で」をテーマに午前は講義、午後は実技で様々な知識を学びました。

実際に視覚資料のある派遣現場は、多々あります。その際にどのように資料を共有情報として有効に活用するか、利用者により良く伝わる表し方とは。実践的な研修内容で、すぐに派遣現場に活かせるのではないのでしょうか。

参加者からは、「話に追いつかない時はその部分を諦めてしまっていたが、それだと利用者も諦めなければならなくなる。資料を上手く活用しより多くの情報を伝えられるように今回の研修を生かしたい！」との感想がありました。

